

おけのこ

大分市南太平寺(竹築社)の
年越し竹灯ろう

2018年度一般会計 9月補正事業概要

(1) 7月豪雨災害復旧・復興事業

①道路防災事業等

法面等の補強工事のほか、道路に流出した土砂、河床や砂防ダムに堆積した土砂等の除去を行う。

【補正額】1,105,000千円(累計5,505,716千円)

- ・道路維持修繕: 137箇所
- ・河川海岸改良事業: 31箇所
- ・急傾斜地崩壊対策事業: 9箇所ほか

(2) 「安心・活力・発展プラン2015」の取組み

①ブロック塀等緊急安全対策関連事業

地震等によるブロック塀倒壊から生命、財産を守るため、倒壊の危険性がある県有施設のブロック塀等の緊急安全対策を実施する。私立学校や社会福祉施設・住宅等に対する助成制度を創設する。

【補正額】1,337,378千円(累計3,666,559千円)

- ・県立学校ブロック塀等緊急安全対策事業: 40施設
- ・警察施設改修費: 58施設
- ・住宅耐震化総合支援事業(補助率1/2、限度額10万円)

②県央飛行場機能強化事業

緊急消防援助隊のヘリベースに位置づけられている県央飛行場(豊後大野市)の機能を強化するため、給油施設を増設する。

【補正額】71,215千円(累計83,894千円)

- ・完成予定: 2019年3月

③スポーツを通じた学び推進事業(新規)

児童・生徒のスポーツを通じた学びを促進するため、オリンピック・パラリンピックを活用した教育に取り組む。

【補正額】7,328千円

- ・アスリート講演会、パラリンピック競技体験学習の実施ほか

(3) その他

29年度決算剰余に伴う繰越金の一部を財政調整用基金等へ積立てる。

【補正額(積立額)】2,505,986千円



9月5日に開会した2018年第3回定例県議会は、25日に閉会となり、21日間にわたる会議日程を終えました。

今議会では、7月の梅雨前線豪雨災害の関連経費のほか、「安心・活力・発展プラン2015」の施策推進に要する経費に関わる補正予算(54億5021万2000円)や、「久住高原農業高等学校」の設置に関わる条例改正等が可決されました。

二〇一八年 第三回定例県議会 防災・減災に万全の対策を 「おおいた大茶会」の成功を期して

大規模災害への 対応と備えについて

去る七月、西日本を中心に記録的な豪雨に襲われ、大変大きな人的・物的被害が広範囲に生じました。本県でも、昨年の豪雨災害に続いて、農林水産や土木関係を中心に六十億円を超える被害に見舞われました。

先般九月上旬には、関西方面を中心に台風二十一号による大きな被害が生じました。そして、その直後の九月六日には「最大震度七」に達する「北海道胆振東部地震」が発生するなど、近年の日本は「災害列島」と化してはいないかと、心配される状況です。

九州では、一昨年の「熊本

地震」で震度七を二回記録しました。また、懸念される「南海トラフ巨大地震」の発生確率は、今年から七十%~八十%に引き上げられています。

県に対しては、国や市町村等関係機関としっかりと連携し、ダムの整備や河川改修等のハード対策とともに、避難訓練の実施やハザードマップの作成・危険周知など、ソフト対策にも急務として取り組むよう求めるところです。

国民文化祭全国障害者 芸術・文化祭に向けて

十月六日から十一月二十五日までの五十一日間、「おおいた大茶会」をテーマにした百六十もの魅力あふれる文化事業が大分の全域を会場に繰り広げられます。

大分での国民文化祭は二十年ぶりですが、全国障害者芸術・文化祭は初の開催となります。この文化祭を通じて、これからの将来に引き継ぐべき「レガシー」



- ① 伝統文化と現代アート、和と洋の芸術など、異なる分野の「交流と出会い」が生まれることにより、新たな輝きや次なる芸術文化を創出すること
- ② 若手や障がい者の皆さんが活躍し、経験を通じて自信を持つことで、文化活動の裾野が広がることも、大分の芸術文化を担う人材が育つこと
- ③ 全市町村での障がい者アート事業の実施(全国初の取組み)を通じ、障がい者への理解と社会参加を促進すること。

来春、県立久住高原農業高等学校が開校

竹田市久住町にある「県立三重総合高等学校久住校」が本校化され、来年4月に県内唯一の農業単科校「県立久住高原農業高等学校」として開校することが決まりました。

また同所には、県下農業系学科の生徒等の研修施設「くじゅうアグリ創生塾」が新たに設置されます。

多様な農業を体験し学べる環境のなか、次代の農業を担う人材を育成することとし、同校の特色を全国に情報発信して県外からも生徒募集を行います。



感じていただけでなく、おもてなしをたっぷりと施し、新たな「大分ファン」を増やすことも大切です。

こうした「レガシー」を生み出し、来年以降のラグビーW杯や東京オリンピック・パラリンピックへとつなげることが、「大分創生」に向けての大切な基盤になるものと考えます。

「議員と語ろうイン 豊肥地域」へ出席

県議会では、議員が県内各地へ出向いて地域の現状や課題等について県民と意見交換を行う「出前県議会」を実施しています。

県内6つの県振興局を単位に巡回し、今年は豊肥振興局管内の豊後大野市三重町にて、「豊肥地域の魅力あるまちづくり」をテーマに「議員と語ろうイン豊肥地域」として実施しました。

当日は、竹田市・豊後大野市の地域活性化に取り組む5名から、SNSを使った地域の情報発信、地域課題の研究、まちづくりに対する思い等について発表を受け、参加県議とともに様々な意見を交わしました。

いただいた貴重な意見は、今後の議会活動を通じて反映していきます。



また文化祭には、全国から多くの出演者や観客が自慢の食や伝統文化等を体

福祉保健生活環境 委員会県外調査

常任委員会所管の事務・事業や施設等の調査のため、愛知県を訪問。動物愛護センター、福祉・健康、防災関連施設の運営状況等について調査し、現地の方々との意見交換を行ってきました。

ここでは、放課後デイサービス、生活介護など多様な障がい福祉サービス事業が実施されています。

「放課後デイサービス」は、

大分県にも大分市との共同設置で、来年二月に「おおいた動物愛護センター」がオープンします。動物愛護・適正飼養を普及する拠点として、役割を發揮しなければなりません。



当センターの特長は、何と云っても、ここ二カ年は犬の「殺処分ゼロ」を達成しているところ。犬殺処分ゼロサポート寄附金（ふるさと納税の枠組み）の活用や、譲渡会でボランティアの協力を得ながら取り組みを進めています。

名古屋市動物愛護センター（名古屋市）―殺処分ゼロを実現―

地震体験機には、過去の地震データが入力されており、二〇一二年の東北地方太平洋沖地震を再現してもらいました。最大震度七に到達し、約二分間にわたる揺れです。巨大地震の凄まじさを体感しました。



全国でも珍しい「二間続き」の地震体験機

こちらは、地震や火災などの災害に対する防災知識の普及を図る施設です。来所者が「読んで」学ぶのではなく、「体験して」学ぶことを基本としています。

愛知県防災教育センター（尾張旭市）―考えるより、まず体験―

国の制度見直しで運営が厳しくなっていますが、サービスの提供を何とか維持しようとする懸命な努力をされています。「人は一人ひとり違う」。それぞれの利用者のペースに合わせた「*碎啄同時」のサポートを心がけているそうです。

大府市は四十年以上にわたる「健康を基本としたまちづくり」を推進しています。長寿に関する研究機関や施設が集積した「あいち健康の森とその周辺地区」を「ウェルネスバレー」と名付け、愛知県の健康長寿の一大拠点となっています。

ウェルネスバレー―構想（大府市）―「幸福社会」をめざす―

同法人は、KHJ全国ひきこもり家族会の活動にも寄与しています。近年は成人（二十代後半〜三十代前半）のひきこもり事例が増えているとのこと。自主財源で運営を続ける姿に、並々ならぬ努力と苦勞を感じました。



社会的ひきこもり・精神障がい・知的障がい・自閉症など、当事者とその家族に寄り添い、改善・解決をめざして活動をしています。

NPO法人オレンジの会（名古屋市）―アウトリーチ型支援を提供―

最近の動き

7月

- ▷「人間・高山辰雄展」(県立美術館)
- ▷中九州・地域高規格道路促進期成会総会(竹田市)
- ▷大分政経懇話会7月例会(別府市)
- ▷革新的技術活用特別委員会県外調査(愛知県・岐阜県)
- ▷内外情勢調査会大分支部懇談会
- ▷第59回地方自治研究大分県集会(津久見市・臼杵市)
- ▷第37回みなみおおいた夏祭り
- ▷部落解放共闘大分県民会議「2018夏期学習会」
- ▷2018日台交流サミットin高雄(台湾:高雄市)

大分県議会訪問団で高雄市政府を訪問し、大分〜台湾間の空路直行便の就航を要請。



8月

- ▷第14回市民いっせいごみ拾い
- ▷県立竹田高等学校大分・別府同窓会第1回評議員会
- ▷被災地現地調査・由布市地域課題研究(豊後大野市、由布市、中津市)
- ▷第30回大分県消防操法大会(由布市)
- ▷福祉保健生活環境委員会県外所管事務調査(愛知県)
- ▷認知症対策・再犯防止に係る調査(神戸市)
- ▷九州各県議会議員交流セミナー(那覇市)



ちいさな鳥々が多いながらも、人口144万人を有する沖縄県。地域活性化に向けた熱意ある取組みを意見発表。

- ▷2019年度当初予算編成に関わる県知事要請
- ▷大分大学イノベティブ経済セミナー

9月

- ▷2018年第3回定例県議会開会
- ▷2018年度国民保護共同訓練(図上訓練)
- ▷来年10月に大分で開催されるラグビーW杯でのテロ事案発生を想定した訓練を実施。対策本部内は、本番さながらの緊迫した雰囲気。
- ▷第5回大分県議会政策勉強会
- ▷大分県生協連合会懇談会
- ▷日本温泉科学会第71回大会(別府市)
- ▷第71回県民体育大会―議員ソフトボール―(佐伯市)
- ▷第2回「やっかい者の竹を活用して地域の活性化を」シンポジウム
- ▷第29回豊の国ねんりんピック総合開会式



大分県のアクティブシニア約4000人が出場し、野球、サッカー、テニス等をプレー。皆さんお若い。「人生100年時代」の到来です。

- ▷OITAドローンフェスタ2018
- ▷2018年第3回定例県議会閉会
- ▷出前県議会「議員と語ろうin豊肥地域」(豊後大野市)
- ▷県議会議場コンサート
- ▷大分県森林・林業活性化促進議員連盟研修会

防災士 木田昇の

防災メモ



―いつ起きる南海トラフ巨大地震①―

今年に入って6月に震度6強の大府北部地震、そして9月には震度7を記録した北海道胆振東部地震が発生しました。

地球規模でみると、インドネシア、メキシコ、チリなどでマグニチュード6を超える地震が頻発しており、環太平洋域は地震活動期に入っているとのレポートも一部では発表されています。

九州では、一昨年に震度7を2回記録した熊本地震が発生したばかりですが、大阪や北海道で起きた今年の地震も含め、いずれも「内陸型地震」です。

そこで懸念されるのが、「海溝型」の「南海トラフ地震」です。駿河湾から足摺岬の沖合に広がる南海トラフでは、過去に約100〜150年の周期で大規模な地震が繰り返し起きています。

直近では、1946年12月の南海地震(最大震度6)が最後であり、政府は今後30年以内の発生確率は70〜80%程度と発表しています。

*南海トラフ地震をシリーズでお伝えします。

公式ホームページ&ブログ

木田昇の議会・政務活動を随時更新中。



“大分県議会議員 木田昇”で検索
[http://oita-kida.net/]

*県民クラブHPはコチラ
(http://www.oct-net.ne.jp/shakai-1/)

竹の子記

長きにわたりパラリンピック日本選手団長を務め、「日本パラリンピックの父」と言われる、別府市出身の医師「中村裕」氏(故人)の足跡を題材としたドラマが全国放送されました▼同氏は、「保護より機会を」を理念に、障がい者の職業的自立をめざす「太陽の家」を創設。また、「大分国際車いすマラソン大会」を提唱したのも、同氏のご功績です▼そんな矢先、国の省庁や自治体における障がい者雇用の「水増し」が問題となりました。本県の教育委員会でも何らかの障がいをもつてはいたものの、障がい者手帳を所持していない職員を算入する誤りが明らかになりました▼今年から手帳所持の確認が必須と変更されたことにより分かったことで、意図的な「水増し」ではなかったとは言え、「障がい者雇用率日本一」をめざす本県として、法定雇用率を正式に満たすよう、障がい者雇用の拡大を早急に図らなければなりません▼「全国障害者芸術・文化祭おおいだ大会」が開催され、二〇二〇年には「東京パラリンピック」の開催が待っています。本県には、中村博士のご遺志を受け継ぎ、「取り残される障がい者」がいない社会を実現する責任があります。